

建築学科のキャリア教育

【JABEE 基準 2.5(2)】

1. 就職活動の戦略

建築学科では、従来、学生の就職活動は学校推薦を中心に行い、窓口は就職指導委員に一本化する戦略をとってきた。しかし、少子高齢化時代を考えると近年の売り手市場は長く続く可能性が高いと考えられる。また、学生気質の変化、すなわち、自ら方向性を見いだせない学生や決断できない学生の増加、あるいはコミュニケーション能力の乏しい学生が増えてきていることを考えれば、就職に対する意識づけと就職相談が重要であり、就職活動も自由応募を中心に行わせることが肝要であると考え。それに伴い、3年次7月のゼミ配属期から、学科全体で就職に関する講演会・セミナーを開催し、各教員が卒業研究ゼミナール等で就職活動の個別指導にあたる。また、窓口一本化の戦略は継続し、学生の要望に基づく新規就職先の開拓や、学生の就職相談、学生と企業とのマッチングを行っている。その成果は、学生の要望に応えた就職実績につながっている。

2. キャリア教育システム

建築学科では、キャリア教育会議を毎年少なくとも1回は開催し、PDCA サイクルによって、継続的にキャリア教育の改善を行う体制を構築している。それによって、就職に関する情報を教員全体が共有するとともに教員全体がキャリア教育に取り組める仕組みを作り上げようとしている。

3. 建築学科キャリア教育

- 1年次前期
 - ✓ 「建築概論」の授業の中で、建築学科が育てようとする技術者像とそのために達成すべき学習・教育到達目標について学ぶ。また、建築に関係する職業と必要となる専門知識について学ぶ。その上で、将来、①自分の就きたい職業、②目標とする技術者像（どのような技術者をめざすのか）、③目標とする技術者になるために大学4年間で具体的に何をなすべきかのレポートを書かせている。
 - ✓ 「建築概論」の中間試験において、目標とする技術者像と学習・教育到達目標に関する問題を出題し、理解度を確認している。
- 1年次前期～2年次後期
 - ✓ 授業、課外活動を通して、建築に必要な基礎力を徹底的に鍛える。
- 3年次6月
 - ✓ 業界研究①
 - 建築業の職種とその仕事の中味を学ぶ講演会を開催する。

- 建設業の現状と展望を学ぶ講演会を開催する。
- 過去数年間の建築学科卒業生の就職先データを公開し、学生に具体的な就職先への意識を持たせる。
- 3年次9月～11月
 - ✓ 就職活動の準備
 - 「職業観と倫理」（2019年度開講）の授業において、建設業について学び、自分の目指す技術者像を明確にしていく。また、技術者倫理の意識を高めるとともに、履歴書やエントリーシートの作成などを指導し、就職先の方向性を固めさせる。ハウスメーカーやゼネコン、設計事務所などで働くOB・OGを招いて、講演会形式（オンライン）で、それぞれの業界の特色や就職活動のノウハウを説明していただく。
 - ✓ 学科独自の学内合同業界研究会（ブース形式）
 - 建築学科に関係した企業を集め、ブース形式の企業説明会を開催している。説明者には出来るだけOB・OGに来ていただき、イベント終了後にOB・OG会も行い、卒業生の意見を集約し教育システムやカリキュラムの評価に繋げている。
- 3年次12月
 - ✓ 就職個人面談
 - 就職先の方向性を固め、就職指導委員との個人面談（15分/人）を行う。就職指導委員は学生の志望を把握し、求人企業とのマッチングを行う。
 - ✓ この時期に就職活動を控えた学生全員に正式な履歴書を作成させ提出させる。履歴書は就職指導委員によって添削され返却される。学生は返却された履歴書の指摘をもとに修正を行う。
 - ポートフォリオの作成：設計事務所やハウジング志望の学生には、冬休みを利用して、これまでの授業やコンペで作成した自分の作品の中から数点を選んで、自分の作品集を作成させる。
- 3年次1月
 - ✓ 企業研究：この時期は定期試験前なので学生は学業に力を注ぐが、同時に自分の志望する企業研究を行う大事な時期でもある。リクナビなどへのプレエントリーやエントリーもこの時期に行う。
- 3年次2月
 - ✓ 学内合同業界研究会（ブース形式）：定期試験終了後に、3日間大学キャンパス内でブース形式による企業説明会が開催される。建設業は3日間で大手建設会社をはじめ設計事務所など70社程度の参加がある。学生にとっては、企業の方と直接話のできる有意義な会になっている。

近畿大学工学部建築学科のキャリア教育

就職活動の戦略

自由応募，窓口一本化

大学の置かれた立場 ⇒ 私大かつ地方大学.

自由応募制の背景 ⇒ 少子高齢化社会の到来，売り手市場の長期化.

強み ⇒ 長年にわたって築かれてきた学科財産の一つ.

⇒ 不景気においても，信頼を築いてきた企業や就職に実績のある企業からの継続採用.

課題 ⇒ ① 学生の就職に対する意識の向上

② 教員の本気さが重要 ⇒ 教員全体が取り組めるシステムの構築

就職支援システム

1 年前期

自分の将来の夢を描く．何をなすべきか目標を立てる

1 年後期

建築に必要な基礎力を徹底的に鍛える.

2 年前期

2 年後期

建設業を知る．将来の職業像をイメージする.

3 年前期

就職や将来計画の相談．職種とその中味を知る.

学科就職セミナー（建設会社を知る）

建設業界の実情と今後の展望を知る．講演会などの開催.

3 年後期

企業研究．履歴書・面接・プレゼンテーションの指導.

1 2 月就職指導委員との面談．履歴書の作成.

2 月学内合同業界研究会

4 年前期

3 月上旬～就職活動へ.